

ウクレレのタブ譜について

三声というのは、合唱用語から由来しているもので、「声」は一人の声と同じです。三声は三人が歌っている楽譜という意味です。つまり、4分の4拍子ですと、1小節にそれぞれ4拍なければならないのです。

例えば、2小節ではメロディ（上向きの音符）、伴奏の中音、そして低音符とも全て4拍になります（休符も含めて）。

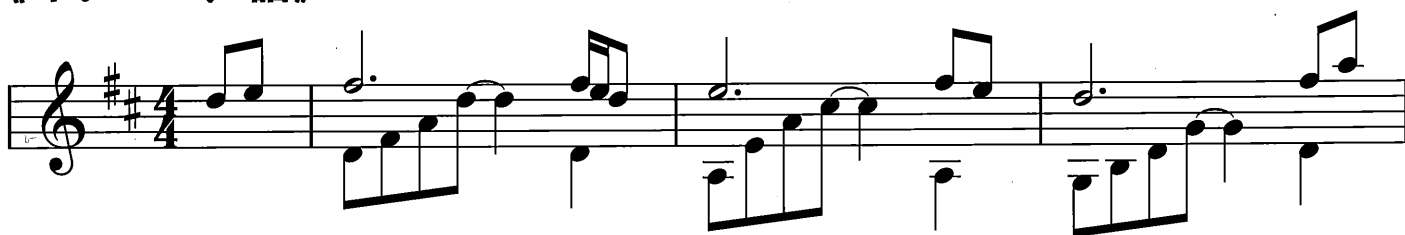
《ギター三声譜》



↑ 2小節目を見ると
一番上はメロディで、付点二分音符+16分音符2つと八分音符1つ = 4拍
中音部は八分休符+八分音符3つ+四分音符+四分休符 = 4拍
低音部は付点二分音符+四分音符 = 4拍

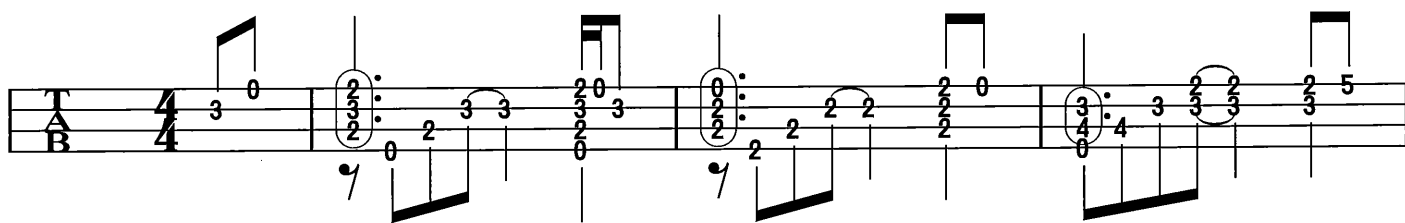
下記の二声譜では、伴奏部と低音部が一緒になっています。一見、低音の音の長さが不明だったり、休符も取れない楽譜になりますが、演奏者の判断によってかなり理解できると思います。

《ギター二声譜》



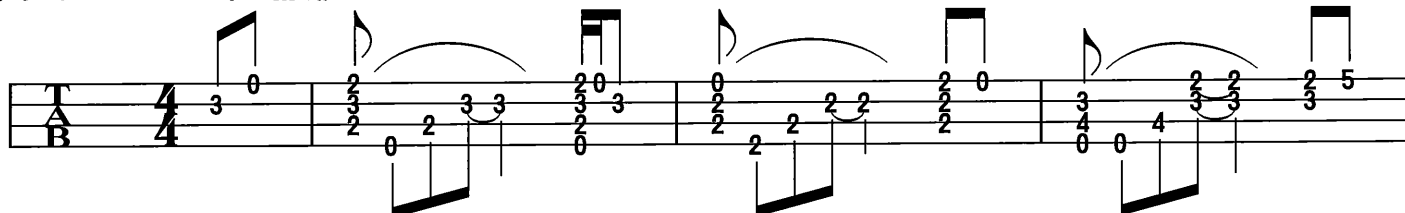
下記のウクレレ二声譜は、上記ギター二声譜にそって作りました。丁寧に書くとこうなりますが、2分音符などが○で囲まれたりすると、譜面がごちゃごちゃになりやすいです。但し、込み入った楽譜にはこのような楽譜も必要かと思ひます。（上・下向きの音符はそれぞれ4拍）

《ウクレレ二声譜》



通常、私のウクレレ譜は一声譜で書かれる事が多いです。（多少例外も有）2小節目のメロディに弧（メロディタイと呼びましょう）が付いています。メロディは八分音符ですが、この弧が伴奏部の3拍目まで伸びていますので、このメロディは3拍分という意味になります。

《ウクレレー声譜》



↑ 上記「ウクレレ二声譜」では八分休符がありますが、一声譜ではない方が多くなります。しかし、メロディが八分音符で書かれているので、同じ音間隔になるので判ると思います。

・メロディと伴奏（低音、繋ぎ他）がはっきり判るように、音符の上・下向きでそれぞれ表しています。本来のタイは同じ音同士になります。